

編集後記

●今回のキャッチアップは、下水道機構が平成13年から取り組んでいる建設技術審査証明事業における立会試験の様様をとりあげました。民間企業から申請のあった新技術の特長や用途などを客観的に審査・証明することによって、新技術の普及促進を支援する事業で、これまでに188技術が審査証明を取得しています。今年度からはフォローアップも充実させるなど、サービス拡充を図っています。皆様の一層のご活用をお願いします。

●メッセージは、昨年9月から日本下水道事業団の副理事長に就任されている曾小川久貴氏に「十年樹木 百年樹人」と題して執筆していただきました。曾小川副理事長は、表題にもなっている中国の政治家管子の言葉の一節や、長岡藩の小林虎三郎の「米百俵」の逸話をもとに、これからの人材育成の大切さや、そのための社会システムのあり方について提言し、「下水道界は今一度この精神に立ち戻り、人材育成に真剣に取り組むべき」と警鐘を鳴らしています。

●今号では、下水道機構の技術委員会委員長に就任された京都大学名誉教授の松井三郎氏をゲストに迎えて、石川忠男理事長と行った「対談」を掲載しました。松井氏は、京都大学で過ごした学生

時代から今日に至るまでの研究活動の内容をさまざまなエピソードを交えながら紹介してくださるとともに、研究者としての心構えや技術開発の方向性など多岐にわたる提言をされています。是非ともご一読ください。

●エンジニアリングレポートは、福山市との共同研究である「新技術を活用した効率的な合流式下水道改善技術」と大深度シールド工法の技術的知見をまとめた「大深度雨水貯留管構築のためのシールド工法」をわかりやすくまとめました。

●トピックスは、積水ハウス・資源循環センターを取材し、同社が進めているICタグを活用して新築工事現場から排出される廃棄物の削減を目指した「次世代型ゼロエミッションシステム」の取り組みを紹介しました。

●ユーザーレポートは、全国の下水处理場で100台以上が採用されている「圧入式スクリーンプレス脱水機」をとりあげました。共同研究の開始から10年目を迎えるこの技術が、どのようなメリットをもたらしているのかを、富山県小矢部川流域下水道二上浄化センターを取材し、運転管理を行っている富山県下水道公社の方々におうかがいしました。参考になれば幸いです。（編集委員一同）

表紙の 写真



次世代の新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、子供の写真をシリーズとして紹介しています。写真のお子さんは、土田俊彦本機構研究第一部研究員の長女の光里（ひかり）ちゃん（2歳）です。

この写真は、昨年12月に家族で横浜市の四季の森公園へ遊びにいったとき一枚です。公園の色鮮やかな木々に囲まれて満面の笑顔の光里ちゃん。和食が大好きで、お味噌汁のお豆腐を1丁程も食べてしまうそうです。今一番のお気に入り“かるた”で、両親が飽きてしまうほど何回も繰り返し、ご飯も忘れてしまうほどのこと。この笑顔で「おかえりなさい」と迎えられたら、どんな仕事の疲れも一瞬で吹き飛んでしまいそうですね、お父さん。

題 字 財下水道新技術推進機構会長・葉山莞児
(大成建設株式会社代表取締役会長、社団法人土木工業会会長)の揮毫によるものです。

季刊 下水道機構情報 Vol. 2 No. 7
2009年1月(冬季号)

平成21年1月26日発行 発行者 葉山莞児
編集者 石川忠男
企画者 江藤隆

編集委員：栗原 秀人/中里 卓治/森島 嘉浩/小代 竜司/
高瀬 行廣/斉藤 実/岩下 真理/鳥海 弘/御崎 善浩

発行所 財団法人 下水道新技術推進機構

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1 水道町ビル7階
TEL 03(5228)6511 FAX 03(5228)6512